

八田與一 レポート

農業開発をするときに、部外者がリーダーを担うことがある。だれにとっても、リーダーが部外者で、その指示に従わなくてはならないというのは強いストレスを感じるものだと思う。

八田與一は台湾でのダム建設を主導した日本人である。台湾人にとっては、日本から来た部外者リーダーであったはずである。

八田與一が台湾に来た目的は、嘉南平野での農業を可能にするためのダム作りであった。嘉南平野は水不足が深刻で、農業を行うことが難しい場所であった。日本は、この広大な平野での農業を可能にすることが今後の台湾にとって重要と考えた。

八田はプロジェクトのリーダーとして現地調査をし、ダムの設計図を描いた。完成した設計図に書かれていたのは、他に例を見ないほどの巨大ダムであった。建設費も高額であり、日本で賄えるような金額ではなかった。それにもかかわらず與一がそのような設計図を書いたのにはわけがあった。建設費を下げた小さなダムを作ったとしても、嘉南平野全域をカバーしきれないダムになってしまい、農家に不平等が生じると考えたからである。

日本は建設費の半分を現地農民が負担するという前提のもと、この設計案を承認するが、現地農民からは反対の声が上がった。與一は必至の思いで農民を説得した。強引に進めることなく皆の意志をまとめ上げた。

一旦建設が始まると、與一の思いが通じていたのか、事業は順調に進んだ。しかし、事業が波に乗ってきたとき、日本で関東大震災が起こってしまった。そのせいで建設費用は大幅カットとなり、従業員の半数をリストラすることとなった。台湾人の多くが、自分たちの首を切るだろうと思っていたところ、與一はリストラの対象の多くを日本人とした。與

一の判断には今まで協力してくれた台湾人への感謝の念があったと思う。ダムの使用者は台湾人であるのだから、ダムは台湾人の手で作るべきという思いもあった。一番の理由は、日本人は日本に帰っても仕事があるからである。首を切られた台湾人のほうがその後の生活がつかなくなる。つまりこの時の判断は、現地の人々の思いを優先させた判断であり、日本人の利益を追求したものではない。與一は部外者として事業を行っていたのではなく、現地の人々のために行っていたのである。このような思いから與一は現地住民の信頼を得て、事業を成功させた。

現地の人々に寄り添っていた與一ですが、そのような姿勢が農業開発においてとても重要であると感じた。自分に課された任務を遂行することがすべてではなく、それに関わるすべての人々が幸せになるように行動できることが大切だと思う。與一の優しさはもはや「愛」である。

與一はこの「愛」によって事業を大成功させ、今でも台湾人に尊敬・敬愛されている。愛を持たずとも事業を成功させることはできたかもしれないが、他人にも認められるような素晴らしい仕事をするのなら「愛」が再重要だと思う。最良の農業開発は現地の人々に感謝される仕事だと思うし、そのような仕事こそやりがいがあるのだと思う。

農業開発に関わる際には「愛」を持つことが必要だと思う。

世界が愛で溢ればいいのに。